



学校だより 2月号

石川小学校 学校教育目標
育てます。「石川魂」

令和6年1月31日
横浜市立石川小学校
校長 寺園 淳

思い・願いが、学びをつくる

教務主任 花村 仁

『学級のみんで石川体操をどうやってつくるかを、1年間かけて考えてきました。今回、石川体操を中村地域ケアプラザに届けることができ、利用者さんが喜んでくださった様子が、映像の笑顔から伝わってきて、とてもうれしかったです。学級のみんがチームごとに協力して体操づくりを頑張ってきました。しかし、何よりも、地域コーディネーターの方や、町内会長の方などのアドバイスがあって、ここまで来ることができました。また、体操づくりのプロの方にも教えてもらったことで、完成度が高まりました。多くの人たちの協力があって、完成できたことが、この学習で分かりました。』

わたしが着任した年、4年生の総合的な学習の時間で、「コロナ禍であまり外出ができなくなったご高齢の方は、運動不足で困っていると思う。だから、わたしたちがつくるオリジナルの楽しくできる体操の動画を届けて、笑顔になってもらおう。」という思い・願いをもち、一年間をかけて体操づくりを行いました。上の文章は、ついに完成した動画を中村地域ケアプラザに届けた後に、ある児童が書いた振り返りの文章です。授業や活動の度に、その際感じたことや考えたことなどを振り返る文章を書くようにしていましたが、活動の当初は、「先生、何を書いていいのか分かりません。」と、なかなか鉛筆が動きませんでした。わたしが、「感じたことを思うがままに書けばいいんだよ。」とアドバイスをしても、あまり変わりませんでした。しかし、活動が進んでいくにつれて、文章量が増えてきたように感じました。

この児童が文章を書けるようになったのは、「利用者さんのために、体操づくりを頑張ろう。」という思い・願いが強くなっていったことが大きいのではないかと考えます。その後も、「どんな動きなら無理なくできるかな。腕を曲げる角度は……。」「利用者さんが知っている曲にしよう。アンケートを取って、それを分析しよう。」といったように、何かを解決するために、それに付随するように、必要な力や知識がさらに加わっていく、というように、学びが広がっていきました。こうした学びはまさに、子どもたちにとって、生活に根差した、切実感のある、生きる力となって結びついてきたように感じます。思い・願いが、つながり合い、学びとなったのです。

今年度、石川小学校は創立150周年を迎え、4月の子ども式典から始まり、11月の記念式典を執り行うことができました。これらの全ての活動が充実したものになったのは、保護者や地域の方々子どもたちのために、学校のために、力を尽くしてくださったことに他なりません。また、子どもたちも、そんな学校のため、地域のために、思い・願いをもって懸命に取り組んできました。わたしは、教務主任として、この度の150周年事業に関わらせていただき、子どもたちが思い・願いをもって、豊かに学ぶ土壌が、この石川の地にたくさんあることを改めて感じることができました。その可能性に、わくわくとした気持ちでいっぱいになりました。

石川小の子どもたちが石川のまちと、学校をより愛せるように、この地域の一員であることを誇れるように、それを意識した学習活動が展開できることを、心から思い、願っております。